

# ～神の計画～あなたの名前Ⅳ 「招かれざる者の食卓」

マルコ 3:13～19

## ■ 相手を変えたい私たち

ある国の傲慢な皇太子が乗った船がクルージング中に、突然気候が悪く嵐になり霧が出て先が見えなくなりました。そんな時、船の行く先に光が見えました。船が向かってくると思った皇太子は、このままだとぶつかってしまうと思い、船長に「あの船をどけさせろ」と命令します。船長はそのようにモールス信号で送ります。しかし、向こうは「そちらがどけろ」と送ってきます。「こちらは皇太子の船だ」と送りますが、「こちらはどうもだ」と送ってきて、何度かこのやり取りが続きます。実はその相手は船ではなく、灯台でした。私たちはこのように、しっかりと真実を見極めなくて自分の思い通りに進みたい、そのために相手を変えたいと思ってしまいます。

## ■ バルトロマイのアトリビュート

聖画に描かれるバルトロマイのアトリビュート（その人のテーマとなったシンボル）はナイフと書物ですが、ミケランジェロの絵では皮を持っている姿が描かれています。彼は聖書に生き、最後まで命をつなぎ命がけで宣教し、最後は皮を割かれて殉教していきました。

そんなバルトロマイがどうして救われたのか。バルトロマイをイエス様のところに連れて行ったのはピリポでした。ピリポから、イエス様がガリラヤの出だと言ったバルトロマイは、ガリラヤからそんな人が出るなんて信じられないと言います。ガリラヤ地方は差別されていた地方であり、バルトロマイもガリラヤ出身で、そのことに劣等感を抱いていました。ピリポはバルトロマイに「実際に自分で見てみる」と伝え、イエス様に出会わせます。半信半疑なバルトロマイに対し、イエス様は「このイスラエルの中で、律法を守る素晴らしい人だ」と言い、バルトロマイは「この人は私のすべてを知っている」と思われます。バルトロマイの半信半疑の心は、熱心さの裏返しでもあったのです。「イチジクの木の下にいるとき、ピリポに声を掛けられる前からあなたのことを見ていた」誰も知りえないバルトロマイの熱心さをイエス様は見抜き、バルトロマイに伝えたのです。それによって、イエス様のことを信じ、ついていくことを決めます。「この時」という時に、イエス様の前に素直に出ていくことで変えられていくのです。

イエス様が天に昇られた後、バルトロマイはピリポと一緒にインドに宣教に行きます。たくさんの方が救われますが、偶像礼拝で稼いでいた人たちの怒りを買って、村中の方が反旗を翻して、二人を殺すように言います。そして殺されそうになった時、大地震が起こります。そこで二人は村の人たちが守られるように祈ります。そんな姿を見た人々によって、死刑を免れますが、ピリポは殉教を選びます。バルトロマイは宣教を続け、アルメニアで迫害を受け皮はぎの刑に遭うこととなります。

## ■ バルトロマイ（ナタナエル）について

バルとはヘブル語で「子」という意味があり、トロマイ（タルマイ）の子という意味で、バルトロマイとは名前ではありません。タルマイが聖書で最初に出てくるのは、民 13:22 でカナンの先住民として名前が記されています。アブラハムの時代に、彼らはカナンの地から追放されます。また、タルマイはもう一人聖書に出てきます。イスラエルの王ダビデの三男アブサロム。母マアカがゲシュルの王「タルマイ」の娘。つまり、アブサロムはタルマイの孫です。アブサロムは自分の妹がダビデの長男アムノンにひどい目に遭わされ、腹が立ちアムノンを殺してしまいます。アブサロムはダビデも殺そうとし、追放されゲシュルの王アミツデの子タルマイの所に身を寄せました（IIサムエル 13:37）。アブサロムはタルマイの孫ですが、この当時は孫という概念はなくタルマイの子と言われていました。

バルトロマイは、イエス様に出会ったとき「お前は素晴らしい」と評価され、「いちじくの木の下にお前が立っているのを見ていたよ」と言われました。憎しみをもって罪を犯して追放されたアブサロムのことを神様が見ておられたのと同じように、このバルトロマイのこともイエ

ス様は前からご存じだった…名前があったはずの彼のことを「バルトロマイ」と記されたのはそういう意味が込められていたのです。

## ■ マタイ レビ

マタイのアトリビュートは「お金」と「ペンとインクと書物」でした。マタイはお金を集める取税人から、福音書を書く、書き記す人に変えられていきました。

「マタイ」とは「賜物（ヘブル語でマツタト）」という意味です。イエス様は取税人マタイをスカウトされ、マタイの取税人たちを集め取税人の家で食卓につかれています。周りの人たちは「あの人は罪人である取税人と一緒に食事をしている」と非難します。

「マツタト」は聖書のI列王記 13:7「王は神の人に言った。『私と一緒に宮殿に来て、食事をして元気をつけてください。あなたに贈り物をしてほしいのです』」にある、「贈り物」という意味で使われています。

聖書には摂理が描かれており、一つ一つのストーリーに意味があり、一つ一つの言葉にも深い意味があります。そして私たちの人生にも、深い意味があります。私たちの目線から見ると何でこんなことかと思えるようなことや、無駄にも思えるようなこと、そんなことに意味があるのです。マタイは、主税人になり、同胞からローマになびいてお金をだまし取り、裏切り者となり数にも数えられないような存在でした。しかしマタイはイエス様に出会ったことで、人からお金を取る人から福音書を書き記すものへと変えられたのです。お金のまみれていたマタイのアトリビュートは「お金」から「インクと書物」に変わっていました。イエス様に命懸けでついていくと立ち上がったその手の描写は、アダムとイブが園の木の実に差し伸べた描写と同じでした。私たちはイエス様のもとに理不尽な動機で立ち上がりますが、イエス様はそれでもいいと言ってくださっています。

「レビ」とは伴う・連なる「ラーヴァー（夫が妻に結び付く）」という意味があります。花嫁を迎えに行くという意味ですが、裏切り者の花嫁でいいからその手について来いとイエス様は言ってくださっています。

## ■ 神様についていくことで変えられる

私たちの名前には深い意味があります。ただ私たちの名前が呼ばれただけではありません。悪霊を追い出す権威、つまり誘惑の声に打ち勝つ力を与えるためです。過去がどんな状況だったとしても、失敗だと思えたとしても、今やっていることが例えずれていたとしても、それでもいいからわたしについてきなさいと言って下さっています。そしてイエス様についていった人たちは、十字架の復活に出会い、変えられていきました。神様はこのようにして私たちの人生を導いてくださいます

## ■ 最後に

私たちは失敗を犯してきましたが神様に導かれ、再び同じ道に行かないように、神様は名前をもう一度確認させてくださっています。その名前は、あたかも失敗を記したような名前に思えるかもしれませんが、神様は、その名前を呼んでくださって、私たちは悪霊を追い出す権威（私たちに押し寄せる誘惑を追い出すための力）を与えられ、変えられていくんだと伝えてくださっています。

神様は摂理をもって私たちに向き合ってください。私たちに無駄に思えることも、失敗に思えることもイエス様は見てくださっています。そして十字架に架かってくださったのです。ですから私たちは、善悪を自分で判断することをやめて、神様にただついていきたいです。神様が私たちの人生を変えられる力があることを信じていきたいです。

（要約者：神達 良子）

（2022年10月9日）